

書き方のヒント

【個人申請】

個人申請書は、4枚です。各欄の与えられた行数で、お書き下さい。

形式を一切変えずに、4枚で作成して下さい。

「申請書」は、選考委員が精査します。選考委員が読んでわかりやすい文書作りを心がけて下さい。

■ 申請者

お名前、現在の職業と職位、顔写真、生年月日、現住所、電話、ファクス、携帯番号、メールアドレス、国籍、在留資格（外国人の場合）、すべて必須項目です。

■ 研究・活動の題目（簡潔に記入すること）

申請者が何をしたいのか？ 選考委員に1行で伝える欄です。新聞記事に例えるなら、大見出しです。研究・活動の題目とは、テーマのことです。

■助成計画達成期限

本財団は1年もしくは最大2年で成果を出す研究・活動に助成をしています。助成計画達成期限とは、申請者の助成事業終了時をさします。2年を過ぎても達成できなかった場合、事業継続を打ち切ることがあります。期限をしっかりと設定して下さい。

■成果の発表方法

成果の発表方法とは、助成事業を達成したあと、その成果をどのように社会に伝えますか？ という問いです。音楽家や劇団は演奏会や演劇そのものが助成事業になります。公演終了後に、それらの活動をどのように伝えるか？ 手段を聞いています。

メディアでの記者発表、学会での発表、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）での発信、成果の出版化、DVDを制作して図書館、研究施設に配布するなど、成果を広く社会に波及させる方法を具体的に示して下さい。

■申請金額

選考委員は申請書の1枚目で申請内容の概要を把握し、2枚目から申請内容の細部を検討していきます。申請金額は2度登場します。1

枚目下段と 4 枚目の [■助成金の使途および収支予算] です。申請金額は同額でなければなりません。

■申請者の経歴（学歴や職歴を時系列で）

学歴は高校からお書き下さい。選考委員が一目でわかるように経歴を要約して、時系列でお書き下さい。

■現在までの活動・実績（時系列で、簡潔に）

実績をたくさん書けば、評価が高くなるというものではありません。指定された行数内で、これまでの活動（シンポジウム参加、演奏会、舞台、映画、スポーツ等）・研究（論文、学会発表、報告書等）・実績（単行本、共著等）ほか受賞歴など、代表的なものを要約して時系列でお書き下さい。

■研究・活動の目的と内容

この欄は、申請書の核心部分です。

本財団は定款第 3 条で「(日韓) 両国間の交流促進に寄与することを目的とする。」と法人の目的を謳っています。

定款第 4 条では「日本と韓国に関わる文化・芸術・歴史・社会・ス

スポーツ等の分野における学術研究・創作活動・啓蒙活動・実践活動
および日韓に関わる国際交流に対する助成」と法人の事業目的を明
言しています。

定款は一見難しそうですが、日韓に関わる活動・事業であるなら、
概ね（おおむね）例外なく助成対象の範囲に入ります。

選考委員に向け、あたためている助成計画を魅力的に書いて下さい。

■助成計画のスケジュール（1年～2年）

毎年、助成証書授与式は、主に3月14日に開催されています。

3月14日から3月下旬にかけて助成金が支給されます。2年以内で
達成する助成事業のスケジュールの概要を書き込んで下さい。

■助成金の使途および収支予算（具体的に記入すること）

助成金の使い道について明細をお書き下さい。助成金受贈後に、こ
の欄で書いた使途は順守しなければなりません。[■研究・活動の目
的と内容]と同様、申請書の核心部分になります。

[■研究・活動の目的と内容]を魅力的に描き、その見積として[■
助成金の使途および収支予算]を示さねばなりません。選考委員は
大雑把な収支予算や甘い助成計画をまったく評価しません。

個人、団体ともに1件の助成金額の上限は200万円ですが、この金額は上限であって200万円でなければならないというものではありません。過去に60万2000円を申請した考古学者、講演会開催のために7万円を申請した団体もあります。それぞれ助成受贈者になりました。申請内容と申請金額が合致していたからです。

選考委員を納得させる予算をいかに組み立てることができるか。
[■研究・活動の目的と内容]と[■助成金の使途および収支予算]に整合性がなければなりません。そのため申請者には誠意が求められます。

申請者が思い描く助成事業の輪郭が明確であればあるほど、整合性の高い申請書に仕上がります。特に練らなければならないのが、以下の3項目です。

[■研究・活動の題目]

[■研究・活動の目的と内容]

[■助成金の使途および収支予算]

申請書全体の整合性を再度チェックして、ご提出下さい。